

日本語ラジオ、生活情報発信

南カリフォルニア
南加岐卓県人会100周年 からの風

16



ロサンゼルス観光地の一つ、ベニスビーチ

ラジオからベトナム語が聞こえ、それが英語へと替わり、午前8時。合図の音と共にBGMが流れ「皆さん、おはようございます」と、ロサンゼルス朝に、ラジオから日本語が聞こえてくる。

6年前、母に見送られ岐阜駅を後にし、私が向かった先はロサンゼルス。英語を母国語としない人が多く暮らすこの街には英語以外のさまざまな言語の雑誌、新聞、テレビ、ラジオが存在している。

私は日本語ラジオDJとして、日タニニュースを読み、

大リーグをはじめとしたスポーツや、日米の政治、経済、芸能、またコミュニティー活動などの取材をしながらロサンゼルスを感じ続けている。

通常は朝5時にスタジオに入り、まずは地元のニュースをチェック。銃社会の米国では毎日どこかで発砲事件が発生するが、日本人はしっかりと住居や職場を選び、危険エリアで事件に巻き込まれることは少なく、その代わり、新たな条例の施行などロサンゼルスで暮らす上で必要な情報を入手し日本語で伝えること

に比重を置いている。

2011年、南加岐卓県人会は百周年を迎え、盛大に祝賀会が開かれた。海のない県から言葉も文化も違う米国へと旅立った人たち。その頃の岐阜はどんな様子で、そしてどんな気持ちで故郷を後にしたのか。

情報や技術が発達し故郷が近くなっている今でも、帰郷のたびに街の様変わりには驚かされ、岐阜が発展することに喜びを感じながら、その反面、故郷の面影が消えていくことに寂しさも感じる。

しかし、帰郷のたびに顔を合わせる幼友達近況に、故郷で生きることを選び、ここで子どもを育て、岐阜を支える一人になっている彼らを誇らしく思うのも常。いつか大切な家族や友達が暮らす岐阜とロサンゼルス結び、私たち米国人に暮らす岐阜県人も岐阜を支える一人になりたい。そして、今の時代でしかできない何かを、この先の百年に向けて築いていけたらと切に思う。

ロサンゼルス空は今日も青く広がり、心地よい風がパームツリーを揺らしています。「南カリフォルニアからの風」はこれで最終回ですが、どうぞ今後よろしくお願致します。(文・佐伯和代)

|| おわり ||

◆ さえき・かずよ 2005



年渡米。ロサンゼルスTJSラジオの「Voice President」兼任。J. 岐阜市出身、41歳。

岐阜新聞 130年 ◆ ふるさと再発見シリーズ